

信州松本うらまちレジリエンス・プロジェクト

取組に至る背景・事業の目的

松本うらまち地区（松本市城東周辺）は、松本城と2017年開店の大型商業施設の中間地点に立地し、中町通り、縄手通りからも歩いてアクセスできる、中心市街地のかつての盛り場である。バブル崩壊以降、テナントの撤退が進み、空きビルが並ぶ通りとなっているが、中心市街地のにぎわい創出や回遊性確保の観点からみると、大きな役割と可能性を秘めている。そこで、本事業はうらまちにおいて「テナントが増える⇔にぎわいが増える」の好循環を改めて作り出すことを目的に据えた。

事業内容

- 中心市街地の回遊行動の中でうらまちを知ってもらい、訪れてもらうため、クラフト展示販売とマルシェを組み合わせた「うらまち探検プロジェクト2023」を実施
- うらまちを周知するため、うらまちや周辺店舗を紹介する刊行物「URA NO MAMA」を作成・配布
- 空き店舗の利活用を推進するため、空き店舗を案内する「空き店舗ツアー」、空き店舗を活用した出店計画づくりワークショップ「カフェをやってみよう」の実施
- うらまちを訪れるきっかけを定期的につくるため、オリジナル脚本による演劇公演（うらまちのレガシーを残していくため、松本城天守を守った市川量造をモチーフとした脚本）や、地元キャストの発掘・育成を行う演劇ワークショップを実施。



【うらまち探検プロジェクト2023】



【URA NO MAMA】

事業効果

- ・「うらまち探検プロジェクト2023」の開催
：5/26～5/28 来場者延べ90人
- ・刊行物「URA NO MAMA」の発刊：3回（5月、10月、2月）
- ・空き店舗での新規開店：13店（令和3～5年の合計）
- ・演劇公演の開催：5月～3月で計16回 来場者延べ560人
- ・演劇ワークショップの開催：受講者7人



【演劇公演】

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

うらまちにおいて「テナントが増える⇔にぎわいが増える」の好循環は生まれ始めたところであり、この流れを確かなものとするためには、本事業を継続していくことが求められる。本協議会では、協議会メンバーや協力者とともに、元気づくり支援金による支援が終了した後の事業のあり方や体制について建設的な協議を重ねてきた。その結果、本事業の実行チームが中心となってNPO法人を設立し、本協議会と連携しながら「うらまち探検プロジェクト」「演劇公演」「空き店舗の活用」等の事業を継続していくことになっている。

うらまちの再生に向けて、うらまちの地域資源（立地や歴史的な背景が持つまちのイメージ、うらまちに興味・関心を持つ人々のネットワーク、空き店舗等）をこれまで以上に活用、自己強化ループを育てながら、持続可能なまちづくりを継続していく。

【評価のポイント】

地域のアクションプランを作成しNPO法人化により継続的な取組を目指す姿勢に模範性が認められる。また、立地を活かした取組であり、地域の賑わい創出に向け、イベントの企画・運営など活発に取り組んでいる。新しく店舗が開店するなど、明確な効果も見られる。

団体名 信州松本うらまちレジリエンス協議会	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先 050-8889-2225/ info@machi-collab.jp	事業費	6,981,200円
ホームページ https://uramachi-pjt.jp/	支援金額	5,000,000円

ソルガムコンソーシアム事業

取組に至る背景・事業の目的

自然災害の増加は、地球温暖化が要因と言われており、2050 ゼロカーボンの実現を目指す強い動機付けとなっている。また、長野県は多くの中山間地を抱え、地域を担う人口の減少から耕作放棄地等が増え続けている。

元気づくり支援金活用3年目の令和5年度は、「ソルガムコンソーシアム事業の認知度向上及び普及促進活動の拡大 ～ソルガムを食べて脱炭素！～（ソルガム認知度の向上と作付け面積の拡大に向けた活動）」をテーマに、アレルゲンフリー、省力栽培、バイオエネルギー素材等の利点を持つ穀物「ソルガム」を軸に、産官学の多様な主体がコンソーシアムとして、農福マッチングの検討会、栽培講習会、料理教室、マルシェ等を実施し、耕作放棄地等の解消、6次産業化による利用促進に取り組む。

事業内容

○事業認知度向上活動及び「ソルガム」の6次産業化に向けた取組

- ・農福検討／意見交換（6回）
- ・栽培講習会（2回）
- ・1家庭1ソルガム運動
- ・地域と連携したソルガム料理教室
- ・展示会出展
- ・成果報告会&そるがむマルシェの実施
- ・延べ23万世帯への広告宣伝活動の実施
- ・ソルガムを見て、食べて、購入する会の開催



【 そるがむマルシェの様子 】

事業効果

○事業認知度向上

購買層（生産年齢人口）において、活動初年度と比較してソルガム認知度は33%向上し、ソルガムの食経験者は56%増加した。

○「ソルガム」の6次産業化

販売を行った出展者により昨年と比較して更に8品目以上のソルガム関連商品が自主開発された。展示・即売会では、1出展者あたり6時間で3.5万円以上の売り上げを実現。全出展者で推定今後継続して販売した場合、15事業者で5,250万円/年～10,500万円/年程度の売り上げ（経済効果）が見込まれる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 成功モデルの拡充：社会福祉事業所等によるソルガム作付けと6次産業化を成功モデルとして、伴走を継続実施する。
- 子実流通量の拡大：ソルガムの食経験→食習慣へ移行するため作付け面積の拡大とともに、販売強化活動を推進する。
- 事業認知度の向上：栽培講習会、展示会、料理教室など地域と連携した活動は継続実施する。
- 茎葉流通と事業化：ソルガムの茎葉を用いた新たな流通網を構築し、販路と利用を実現する。

【評価のポイント】

産学官の多様な関係者の関与の元で取組を展開しており、先進性・模範性が高い。また、比較的栽培が容易で、かつ、食べ物として可能性を持つソルガムの取組は、他地域においても、遊休農地の活用といった面で横展開が可能である。今後の展開も明確に示されている。

団体名 信州そるがむで地域を元気にする会	事業タイプ ソフト事業
連絡先 026-269-5700	事業費 1,464,088円
ホームページ	支援金額 1,052,000円
https://sites.google.com/gm.shinshu-u.ac.jp/sorghum-genki/home	

インバウンドの聖地山ノ内町での外国語実践研修&人材育成事業

取組に至る背景・事業の目的

山ノ内町は、湯田中洪温泉郷・志賀高原という一大観光地を抱え、県内でも有数の観光地として知られている。年間観光客数は300万人を超える一方、観光業を支える人手・人材不足が進み、地域や山ノ内町に愛着を持ち将来を担う人材育成が急務である。

この課題を解決するため、高校生・専門学校生及び大学生を対象に、旅館経営や観光学等を学ぶインターンシップを行い、観光業の理解や就業促進を目指す。

事業内容

○やまのうちまちインターンシップの開催（3回開催）

町内の旅館・ホテルにおいて、観光学や旅館経営学等を学ぶ座学及び接客等について学ぶ現地研修を行った。また令和5年度は、新たにインバウンド客の対応を学生が行う外国語実践研修を実施し、留学せずとも外国語を学びたい学生とインバウンド客を受け入れたい旅館等のニーズに応えようとする取り組みだ。

・開催時期及び参加者数

【2023夏】令和5年7月15日～10月11日 52名

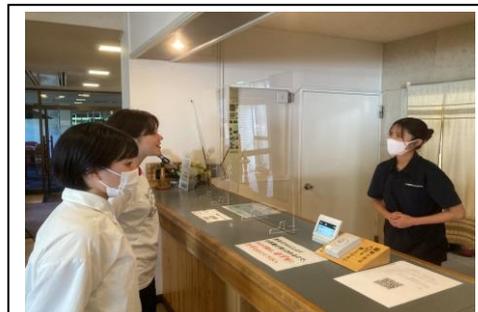
【日帰りプログラム】令和5年11月10日 29名

【2024冬】令和6年1月5日～3月25日 29名

参加者計 110名

・事業内容

- 1 座学(観光学、山ノ内町について、旅館経営学、地域活性化、ホテル英語等)
- 2 現地での研修(旅館研修、アクティビティ研修、フィールドワーク)
- 3 外国語実践研修(インバウンド客対応を学生が行う)



【フロント研修】



【外国の大学生とのインターンシップ】

事業効果

- ・3年間で県内外の大学・専門学校等のべ47校・330人の参加があり、そのうち25%が観光業に、数名が町内の旅館に就職した。
- ・座学だけでなく、学生が現地で接客等を学ぶことにより観光業への就業に理解を深めることができた。
- ・各宿泊施設では、学生の就業体験の感想により、採用活動へのヒントを得ることができた。
- ・インバウンド客の対応に苦慮していた宿泊施設では、学生の接客サポートにより、お客様の滞在満足度の向上、学生の外国語の習得・上達、宿泊施設の売上増加につながった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

大学との共同開催により、安定的に学生数を確保することが出来た。学生には、事前勉強会等で様々な大学の講座を用意し、観光業への就業の機運醸成を図ることが出来た。参加者は首都圏の学生が多かったので、今後は県内大学とも連携し地元就職につなげられるプログラムを展開したい。

【評価のポイント】

学生が集まり、実際に就職につながっているなど、効果が高い取組である。また、インバウンドの観点からも汎用性があり、他の地域でも取り入れることが可能なモデル性の高い取組である。人口減少の課題も見据えており、一層の観光業の人材確保や交流人口・関係人口確保に期待ができる。

団体名 (一社) 観光教育・インターンシップセンター
連絡先 0269 - 38 - 0311(洪温泉小石屋旅館内)/
info@te-ic.com
ホームページ <http://te-ic.com/>

事業タイプ ソフト事業
事業費 1,369,985円
支援金額 997,000円